

<株式会社エフエム東京 第 4 3 8 回放送番組審議会>

1. 開催年月日：平成 29 年 5 月 2 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 本社 10 階 大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（3 名）

横 森 美 奈 子 委員長 秋 元 康 委員
ロバート キャンベル 委員

◇欠席委員（3 名）

渡 辺 貞 夫 委員 内 館 牧 子 委員
川 上 未 映 子 委員

◇社側出席者（11 名）

富木田 代表取締役会長
千 代 代表取締役社長
平 専務取締役
吉 田 常務取締役
村 上 取締役営業局長
山 科 常勤監査役
森 田 執行役員編成制作局長
 兼 株式会社グランド・ロック代表取締役社長
延 江 営業局エグゼクティブ・プランナー
宮 野 編成制作局編成部長
若 杉 編成制作局制作部長
松任谷 編成制作局プロデューサー（オブザーバー）

◇社側欠席者（0 名）

【事務担当 森田放送番組審議会事務局長】

4. 議題： 番組試聴（約 19 分）
『田村淳の FLY HIGH! ～挑戦が未来を熱くする～』
2017 年 4 月 23 日（日）11:30～11:55 全国 38 局ネット

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■EARTH DAY LIVE 2017 について

TOKYO FMをはじめとする JFN ネットワーク 38 社は、1990 年から毎年 4 月 22 日のアースデーに、社の理念である「アースコンシャス～地球を愛し、感じるころ」を象徴するイベントを実施しています。以来、この当社の理念に国内外の多くのアーティストたちの賛同を得て、環境問題に対する意識の醸成と具体的な行動を呼びかけるスペシャルライブを毎年開催してきました。2005 年からスタートしたもう一つのキャンペーンテーマ「ヒューマンコンシャス～生命を愛し、つながる心」のメッセージを併せて、地球への想いとともにかげがえのない生命の大切さをメッセージしてきました。28 回目となる今年は、

4 月 22 日（土）、東京国際フォーラムホールAにおいて「EARTH DAY LIVE 2017～WE LOVE MUSIC, WE LOVE THE EARTH」を実施しました。

一青窈、平原綾香、クリスタル・ケイの三名の女性ヴォーカリストが参加、地球を慈しむメッセージや家族や友達への想いを音楽に託し、力強いライブパフォーマンスで表現しました。トークゲストとしてアルピニストの野口健が出演。JFN38 局では毎年夏に野口氏と一緒に全国のパーソナリティとリスナーとともに富士清掃登山を行っています。日本の象徴である富士山のゴミをなくそうという活動、またエベレストをはじめこれまで 50 回以上もチャレンジしているヒマラヤでのクリーン活動について語りました。この模様はゴールデンウィークの 5 月 4 日（木・祝）にホリデースペシャルとして放送します。



▲クリスタルケイ、一青窈、平原綾香の共演



▲野口健スペシャルトーク

また今年はこの東京のイベントに先駆けて、4 月 9 日（日）奈良東大寺において「EARTH×HEART LIVE 2017 for Children 大仏開眼 1265 年慶讃」を実施、初めての関西でのイベントを FM OH! (FM OSAKA) と TOKYO FM の共同主催で開催しました。未来の宝である子供たちを取り巻くグローバルで切実な社

会問題に対して、大人たちが成すべき責任と行動をメッセージテーマに据え、グラミー受賞歴のあるピーボ・ブライソンほか内外のアーティストたちが参加し、荘厳なオーケストレーションに託して歌い上げました。

この模様は4月22日(土)に全国ネットで放送、また海外の放送局や TuneIn による配信など多言語コンテンツで世界へ発信しました。



▲小柳ゆき、大黒摩季、ピーボブライソン、石井竜也の共演



▲奈良・東大寺での開催

■ 「SCHOOL OF LOCK!」 × SEKAI NO OWARI

“STAY STRONG”チャリティー・リストバンド 第7弾モデル発売

人気バンドの SEKAI NO OWARI と「SCHOOL OF LOCK!」で共同制作した東日本復興支援チャリティー・リストバンド「STAY STRONG」。この取り組みは東日本大震災直後、SEKAI NO OWARI のメンバーと番組スタッフの対話を通じて実現し、「若い世代が気軽に参加できる持続可能な支援を立ち上げたい」というコンセプトのもと、2011年8月に第1弾モデルを発売。それ以来、“STAY STRONG (強くあり続けよう)”という呼びかけと共に、販売と募金活動を続けてきました。第1弾～第7弾モデルまでをライブ会場やインターネット等で販売し(価格は500円)、今年1月から2月にかけて開催されたドーム・スタジアムツアーの会場では、第7弾新モデルを先行販売。売り上げから原価を除いた利益全額を JFN ヒューマンコンシャス募金を通じて「鎮守の森のプロジェクト」へ、累計 33,887,085 円(3月25日時点)を寄付致しました。



STAY STRONG by SCHOOL OF LOCK! x SEKAI NO OWARI

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○EARTHDAY のコンサートは、以前は武道館で開催していた記憶があるが、国際フォーラムで開催するようになってからは何年目になるのか？

■2010 年までが武道館で、2011 年に国際フォーラムで開催した。2011 年は東日本大震災の影響で 4 月開催ではなく、秋の開催となった。また、国際フォーラムだけでなく、さいたまスーパーアリーナや NHK ホールでも開催している。

議題 2 : 番組試聴

【番組名】 『田村淳の FLY HIGH! ～挑戦が未来を熱くする～』

【放送日時】 2017年4月23日（日） 11:30～11:55 全国38局ネット

【番組概要】

本日ご試聴いただくのは、今年4月にスタートした日曜午前11時半から放送の新番組、『田村淳の FLY HIGH! ～挑戦が未来を熱くする～』の4月23日（日）放送のダイジェストです。この番組は、パーソナリティのロンドンブーツ1号2号の田村淳が、夢に挑み、夢を叶えようとチャレンジし、希望に向かって前進している人々を迎えて、未来へのヒントをキャッチするプログラムです。企業家、冒険家、発明家、小説家など、各界で活躍し、成功を収めている若者を番組ゲストに、田村淳がその具体的な活動内容、成功に至るまでの道筋、そしてこれからの夢について、詳らかにしていきます。

4月23日（日）の放送ではYouTubeに動画をアップするクリエイター“YouTuber（ユーチューバー）”のマネジメント会社、UUUM（ウーム）株式会社の代表取締役社長・鎌田和樹さんをゲストに迎えました。鎌田さんは、YouTuberが各国で流行り初めた時に、日本でもこれから流行りそうと真っ先に目をつけ、マネジメント会社を立ち上げた人物です。これまでになかったジャンルの会社を立ち上げるチャレンジ精神や、急に連絡が取れなくなる人もいるという個性の強いYouTuberたちをまとめる苦労やコツを伺い、現代の若者を引き付けるヒントを探った放送回です。



■当日のオンエア楽曲

- ・ 「Sorry」 / Justin Bieber
- ・ 「恋」 / 星野源

【委員の意見および社側説明】

(「○」委員意見／「■」社側意見)

○日曜日の11時台という時間にこのような趣旨の番組を放送するのは意義があると思う。20代・30代という若者をターゲットとした、「未来を熱くする」というテーマも良い。パーソナリティの田村淳さんと番組のテーマの相性も良く、番組の構成も余分がないシンプルな作りになっていて好感が持てた。

○課題に感じたのは、オープニングのナレーションにエコーがかかっている、「天の声」の様に聴こえてしまい、古い演出に感じられた。若い人を対象としているのであれば、もう少し工夫があってもいいと思う。

○リラックスした良い雰囲気ではあるが、台本を意識させるような流れが少しあった。ゲストが前の質問で答えたことと重複するような内容を再度尋ねていたシーンがあったので、台本に沿うのではなく、その場に対応した進行ができればいいと感じた。番組の最後でギャラについて質問していたが、深く切り込んでいて良かったので、そのようにもう一步深く掘り下げて行って欲しい。その場の即興など、田村淳さんには(トークでの)変化球を期待している。

○映像ならすぐに理解できる、例えば振り付けなどの動きのリアリティを、音声のみでどうやって表現するかは課題だと思う。ユーチューバーの話題を扱う中で、何度か有名なユーチューバーの名前が出たが、本人の声は流れなかった。音だけで聴かせて、「地上波ではできないことを自己責任で表現する YouTube の面白さ」を伝えることは容易ではないかも知れないが、実際の音声を流すなどの工夫があっても良かったと思う。

○ユーチューバーのマネジメント会社が20%の margins を徴収しているというシステムの話は興味深かったが、実際にどんなマネジメントをしているか業務内容が気になった。一般的なタレントと違い、ユーチューバーには現場がないだろうから、現場に同行などもないと思うので、具体的にどんな(クライアントサービスとしての)マネジメントをしているのか、もう少し聴きたかった。

○田村淳さんをパーソナリティに起用したことは、人が大好きで、興味のある分野の話聴くことに熱心な田村淳さんのいい意味での「人たらし」を活用した良いキャスティングだと思った。「この番組で一番おいしい思いをしているのは淳さんですね!」とリスナーからメッセージがあったことを冒頭で紹介していたが、とてもいいことだと思った。制作側で設定したゲストの話聴くというよりは、田村淳さんが本当に会いたい人に会っているのが伝わってきた。

○企画としては素晴らしいが、演出に課題を感じた。冒頭のアナウンスが古く、誰に対してのアナウンスなのか分からなかった。番組の内容を聴けば伝わる企画書的な内容なら、もっと早く番組の本編を始めた方がいいと思った。生放送の番組であれば挨拶から入るのは仕方ないが、収録したものを編集している番組は、冒頭に工夫ができると思う。現代の人たちは片手にスマホを持っていたり、情報や時間に余裕がなく聴いている場合が多いので工夫が必要。

○ゲストが 2 週に渡る番組なので、前半の週と後半の週に分かれてしまい、1 週だけだと中途半端に感じてしまうことがある。また、今回テーマで扱ったユーチューバーについては、(ターゲット層を、ユーチューバーがそもそもどういう人たちなのか知らない層と、ユーチューバーについては良く知っているの裏側を知りたい層とどちらに当てたものなのかにもよると思うが、) 一番聴きたかったのは、YouTube という個人で自由に活動ができる舞台では本来、事務所というものが要らないはずなのに、マネジメントがなぜ必要なのかということだった。突出した人気が出たユーチューバーがいたら、途中で事務所にいる意味がないと思ってしまうかもしれないのに、それでも事務所にいたいと思わせるようなメリットは何であるかを知りたいと思った。その部分について後半の週の放送で聴いてくれているのかは(前半を聴いただけでは)分からない。

■放送時間の件は仕方ない部分もあるが演出では工夫を考えていきたいと思う。

○番組のサブタイトルに「挑戦が未来を熱くする」とあるが、もっと田村淳さんが本当に聴きたいことを聴いていくようなネーミングでも良かったのではないか。ゲストも「自分が社会を変えてやろう！」というような決意で行動している訳ではなく、面白そうだからやってみたらたまたま成功してしまったという雰囲気がある。いい意味で脱力している。今の若者に受け入れられるのはそういう切り口かと思う。

■番組タイトルについてはスポンサーの希望を含め様々な意向があった。今後番組作りで工夫をしたい。

○ナレーションでは「ゲストとともに大いに語り合い」という表現があったが、25 分の番組では違和感がある。「大いに語り合い」から想起されるのは、例えば田村淳さんが、ゲストと居酒屋で長時間語りつくして、そこから一番聴き応えのある 25 分を切り取るようなものであり、今回の構成だと大袈裟な表現に聞こえてしまう。

○YouTube は知っていても、ユーチューバーについては単に YouTube に動画をアップしている人という認識しかなかった。また、このようなマネジメント会社があることは知らなかった。その前提で聴いても内容は面白かった。ただ、もう少し具体的な内容が知りたかった。

■番組としての枠組みの制限はあるが、しぶとさと工夫を持ってより深く切り込む番組制作に臨んでいきたい。

5.放送番組審議会の内容について

審議会の意見は、放送番組審議会事務局から各担当部長に伝達した。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送:番組「JOGLIS」

5月27日(土) 7:00~7:20 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <http://www.tfm.co.jp/>

7.その他

次回の放送番組審議会を、6月6日(火)に開催することを決めた。